

GS

No.793
2017
12

■ 巻頭企画

11.10-11 全国協議会を開催

各自が興味あるテーマを選んで参加するテーブルディスカッションが好評!

■ 特別企画

DTP制作環境アンケート調査

— 教育・技術委員会が11月に実施

■ 連載・シリーズ

GP認定制度について①

— ジャグラ副会長 (株)興栄社/東京城東 菅野 潔

需要創出を考える⑤

— (株)ウイング/和歌山県支部

■ NEWSとお知らせ

兵庫県支部 65周年記念式典を開催

ジャグラ HP にて
本誌 PDF 版を公開中。
PDF 版は紙媒体より約1週間
早い毎月中旬頃に
ご覧いただけます。



なかむら通信

読者の皆様へメッセージ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。会長の中村耀です。去る11月10～11日に開催した全国協議会には、多くの地協会長・支部長に出席していただきました。欠席も少なく良い会議になったと思います(早坂理事をはじめ若い方々に企画・運営等お手伝いをいただき、ありがとうございました)。その折り、四国地協の幹事に愛媛県支部から鈴木前支部長、森支部長も参加したお話を伺いました。四国地協が四県になり本当に良かったと思います。

また、兵庫県支部が65周年を迎え、沖専務と参加して参りました。式典は近畿地協総会と同日に行われたこともあり、出席者が多く、90名ほど参加されました。運営に当たった岸支部長ほか支部会員の皆さんが一生懸命になっている姿は気持ち良く思いました。高橋強司さん、小野泰生さんらも参加され、昔話に花が咲きました。カラオケ大会もあり、楽しい時間を過ごすことができ、とても有意義な兵庫県支部65周年記念大会でした。

C・O・N・T・E・N・T・S

● 巻頭言

01 第60回ジャグラ文化典 福岡大会開催にあたり

—— 福岡大会運営委員長 / (有)松永印刷(鹿児島) 松永英明

● 巻頭企画

02 11.10-11 全国協議会を開催

各自が興味あるテーマを選んで参加する
テーブルディスカッションが好評!

04 テーブルディスカッションのテーマとまとめ&講評

08 事例発表・地協報告ほか

● 特別企画

14 DTP制作環境アンケート調査

—— 教育・技術委員会が11月に実施

● 連載・シリーズ

18 新連載

GP認定制度について①

日常作業の効率化・社員の健康管理・社会的な信頼のために!
—— ジャグラ副会長(前環境委員長) (株)興栄社 / 東京城東 菅野 潔

24 需要創出を考える⑤

『和紙(わがみ) ファイル』

『高野山開創千二百年記念 奉賛献書 図録』

—— (株)ウイング / 和歌山県支部

● NEWSとお知らせ

20 企業情報

23 『エジソンを超えて』完成!

—— ジャグラのルーツ、謄写印刷を紹介するガイドブック

26 業界の動き

ジャグラ 11.11 役員推薦委員会を開催

ジャグラ 11.22 兵庫県支部 65周年記念式典を開催ほか

29 ジャグラBB HOTNEWS

10 議事録抄録

28 ジャグラ・スケジュール表

第60回ジャグラ文化典 福岡大会開催にあたり

福岡大会運営委員長 / 九州地協会長
(有)松永印刷(鹿児島)

松永英明



この度、九州地方協議会が主管となり「第60回ジャグラ文化典福岡大会」を2018年6月1日(金)～3日(日)、ホテル日航福岡にて開催することになりました。本来であれば今年の4月14日・16日に発生した熊本地震の震災復興支援の一環として、熊本県支部に開催していただければ九州地協としては推しておりましたが、引き受けられない旨の回答があり、昨年の全国協議会の懇親会の席で、福岡県支部の開催が決定した次第です。

今回の開催地である福岡の紹介をさせていただきます。福岡は古くから大陸との交流の窓口として発展を遂げてきた都市であります。「アジアとの玄関口」として、福岡空港、博多港、博多駅と国内屈指の交通アクセスを誇っています。また、新鮮なお魚やラーメン、屋台で食べる福岡グルメも楽しみのひとつです。あまり知られていませんが、福岡はうどん発祥の地でもあります。そしてやっぱり福岡と言えばお祭り。5月の「博多どんたく」、7月の「博多祇園山笠」——時期が合わずお見せできないのが残念です。また、自然にも恵まれ、住み良い街ランキングでも上位にくる都市。そんなエネルギーな福岡で来年の大会を開催致します。

福岡での開催は、1987年(昭和62)以来30年ぶりです。当時は、運営委員長が鹿児島県支部の前田喜三郎氏、実行委員長が福岡県支部の大里毅久氏のもと、ホテルニューオータニ博多に430名の参加をいただきました。また、韓国のソウル軽印刷業界と交流を行うために、文化典、懇親会に理事長ら10名をお招きしました。大会終了後、翌日からのエクスカージョンには120名余りの会員がソウルを訪問し、日韓交流大会

が盛大に開催されました。

今回の福岡大会は、石井実行委員長を中心に九州地協会員46社が会員の皆様をお出迎えいたします。テーマは「福岡にジャグリストが集い、現在(いま)と未来(あした)を語ろう」です。関係各位のご協力を得ながら、福岡の魅力を最大限に出せるように大会の企画・運営に取り組んでいきたいと思っています。特に、福岡の文化、歴史、食材を通して体感していただけるように工夫を施した懇親会を行いたいと思っています。

また、ご存知のとおり、九州は魅力溢れる観光地がたくさんあります。今回は長崎雲仙、島原、天草、熊本方面で準備する予定です。皆様の心に残る旅になるように企画を考えております。大会にご参加するご来賓、会員の皆様全員が、ホスピタリティを十分に感じていただけるように心を込めて対応させていただきます。ご期待下さい。

そして、福岡大会と時を同じくして「九州印刷情報産業展」が予定されており、主催する福岡県印刷団体協議会ならびに九州印刷材料協同組合に正式な申し入れを行い、当産業展と併催することで動員にも繋がると考えています。

全国のジャグラの皆様とお会いできることを九州地協会員一同、心よりお待ち申し上げます。

～博多に来ちゃんしゃい 待っとうけんね～



グループディスカッションの様

ジャグラは、去る11月10日(金)～11日(土)の二日間、東京ドームホテルおよび日本教育会館において、全国協議会を開催しました。これまで全国協議会は、全国より地協会長・支部長に集まっていたが、事業の中間報告を中心に進めていたが、今回は改めて「支部長が集まって協議する場にしよう」と、早坂理事をはじめとした若い役員が企画・運営に携わっての開催となりました。

11.10-11 全国協議会を開催

▼1日目
——於 東京ドームホテル & 日本教育会館
▼2日目



事例発表① 坂本氏



事例発表② 菅野副会長



事例発表③ 高田氏



年賀状デザインコンテストの表彰：左からハピネス情報処理サービス/井上氏、東日本デザイン&コンピュータ専門学校/野中氏、タカトーププリントメディア/山本氏、中村会長



第三代 InDesign マイスターに輝いた日経印刷/大貫氏と中村会長

各自が興味あるテーマを選んで参加する、
テーブルディスカッションが好評!

11.10(金) 第一日目

全国協議会は規定により副会長が進行することになって
いるため、座長に池邊寛副会長が就任。冒頭、中村会長の
挨拶に続いて、以下のプログラムにて進行しました。

×

事例発表

事例紹介として、一日目に下記3社が発表しました。

事例①「インターネットによる自費出版の受注!

～自由で真摯な企業風土と中間領域という付加価値～

(株)リーブル / 高知 坂本圭一郎

(同社取締役、企画営業部長出版事業部長)

同社の事例は、本誌7月号に「需要創出シリーズ」として執筆していただきましたが、今回、改めてそのコアの部分やサマリーを発表していただきました。

事例②「神津島で地域資源の有効活用」

～桑を使った観光用紙漉きと菓子製造～

(株)興栄社 / 東京城東 菅野潔 (代表取締役)

同社が神津島(東京都)で地域興しのお手伝いをするな

かで、ウインウインになるためのエッセンスを発表して
いただきました。

事例③「PODを使った新商品開発」

～アドボックス=厚紙印刷の事例～

(有)高田紙器製作所 / 会員外 高田照和 (代表取締役)

事例発表の3社目はジャグラ会員ではありませんが、平成27年のジャグラ文化典東京大会の際、実行委員会が作成したパタパタ名刺の作成でご協力いただいたご縁で、同社が最近取り組んでいる新商品(ポストに投函できるパッケージ「アドボックス」=厚紙をPOD機に通す事例)についてご紹介いただきました。

テーブルディスカッション

今回の全国協議会は、これまでとは違った形で開催したいという執行部の意向を受けて、早坂理事が中心となって企画した結果、支部長へのアンケートにより8つのテーマを設定し、各々が好きなものを選んで参加するという形で行われました。各グループのディスカッションのサマリー(4ページの記事参照)は、その日の夜に入力・オンデマンド印刷され、翌日に配布されました。

各種表彰式

●年賀状デザインコンテスト

今年で5回目を迎える年賀状デザインコンテストの表彰式では、会長賞を受賞した下記3名が表彰されました。最初に青木滋経営革新委員長より、コンテストの概要と選考経緯が報告されました。今年は応募総数661点より選考され、会長賞をはじめとした100点(賞金100万円)の入賞作品が決定したことは本誌既報のとおりです。

①カラー部門=(株)タカトーププリントメディア(広島)

山本章次氏

②モノクロ部門=(有)ハピネス情報処理サービス(東京千代田)

井上富美子氏

③学生部門=東日本デザイン&コンピュータ専門学校

野中夏音氏

●ジャグラコンテスト InDesign

ジャグラコンテストは今年3回目の開催で、審査対象はAdobe InDesign。笹岡誠コンテスト推進部会長より経緯が報告され、表彰が行われました。

【第3代 InDesign マイスター】

日経印刷(株)(東京千代田)大貫恵理様

文化典福岡大会の報告

来年6月2日を中心に福岡県福岡市・ホテル日航福岡にて開催されるジャグラ文化典福岡大会について、石井謙二実行委員長(福岡県支部長)・松永英明運営委員長(鹿児島県支部)よりPRが行われました。(スケジュールなど詳細は本号同封のリーフレットをご覧ください)

懇親会

熊谷正司副会長による一日目終了の挨拶の後、懇親会が行われました。今回は賛助会員を招待して開催し、なかなか時間を過ごしました。



Table Discussion

テーブルディスカッション：各テーブルで議論されたテーマとまとめをご紹介します。（円内写真は各テーブルのリーダー）

■Aテーブル



- ①リーダー：(株)みやもと / 栃木 宮本誠
- ②テーマ：地域活性化補助金事業にトライし、自社営業に活かす

③内容：宇都宮に伝わる民話を元に、武将藤原秀郷と妖怪百目鬼をキャラクター開発し、シールラリーイベントを提案。販売促進物は、チラシ、パンフレット、シール、カード、バッジなど、全て自社製品となり、補助金経費（人件費除外）で賄い、地域の活性化と共にプレスリリースなどで自社商品のPRに繋げる。

④まとめ：各社それぞれ独自の取り組みを実行しているメンバーであったが、そんな中でも「うらやましい程参考になった」「行動を起こし、形にまでできた事は素晴らしい」といった意見が出た。全国各地には歴史や伝説が必ずあり、使えるものがあるなあという感想。インバウンド事業にもつながっていくかもしれない。また、このような取り組みは社員のモチベーション向上にもつながることが判った。

かつてジャグラの会議は、インク・印刷技術のような話がメインであったが、広報や宣伝関連の話が出る程、時代は変わったなあという印象を受けた。

今回は一つの開発会議のようであったし、アイデアを形にしていく良い会議であったし、情報発信の重要性（一日にして成らず、コツコツと）も学ぶ事ができた。

■Bテーブル



- ①リーダー：(有)東和プリント / 山梨 樋貝浩久

- ②テーマ：店舗活性化による再生

③内容：コミュニケーションをベースとした店舗活性化について考える。本社移転に伴い、駅近の立地を生かしプリントショップを展開。待つ印刷から物を売る印刷へ。缶バッジやうちわなどの印刷商材を地域のイベントで社員が販売することで、社員のコミュニケーション力向上と会社のPRに繋げる。

④まとめ：プリントショップ＝「気軽な印刷屋」と標榜する割には、暗くて入りづらいよ。白いペンキ塗ったり、明るい雰囲気にしては。社員の方にデザイン提案してもらったら。3つの高校の通学路にあるのだから、スポーツクラブのユニフォーム、Tシャツ、応援グッズを売れば。いろんな物を売って雑貨屋風。缶バッジ（人寄せ→印刷屋というイメージ売り）社協などに売り込んだら。会社売上げの2～3%、ほとんどが印刷関連。

■Cテーブル



- ①リーダー：(株)研美社 / 東京中央 中田逸郎
- ②テーマ：ネット受注による売上げ確保

③内容：今後も拡大するネット通販について考える。ネット通販で活路を見出そうと、独学でホームページの勉強を行い、平成12年に挨拶状印刷サイトを立ち上げる。後に知り合いにサイトを譲り、そのサイトは挨拶状ではトップブランドに成長。その後カード印刷にアイテムを絞り、ネット受注に特化して営業を行っている。

④まとめ：メンバーの状況的には、現在HPを持っていない企業5割、ネット通販というより特化したサイトやキーワードでコンバージョンを上げている企業2割、コーポレートサイトのみでコンバージョンを求めてない状態の企業2割で

あった。レベルは違うが皆Webの必要性は感じている。それが認知だけでも重要という事は認識しているが、聞く感じでは何をどのようにすれば良いかという所からの問題であった。

しかしディスカッションをする中、まずは作ってみようという思いになった。リーダーの話では、社長の思いがWebに載っかるとかという思いが強くあり、ただ作れば良いのではないと皆理解をした。

ホームページは単なる情報ではなく“思い”であると中田氏は言う。意見としてまずやってみる、駄目なら改善してまたやってみる。そのくり返しを行う。更に狙い所として、中間ポジションを担う商材や付加価値をつける重要性も良い勉強になったようだ。全体的にネット通販自体の話では無かったが、まだまだやれる事があるという事はわかった。

ディスカッションは楽しい、ヒントや知らない情報が面白い等、とても評価は高い。リーダーとコーディネーターでの事前打ち合わせがあったならばもっと良かったと言われてしまった。時間は長いようでも実は短かった。皆楽しいとのこと。

■Dテーブル



- ①リーダー：(株)清水工房 / 東京三多摩 比嘉良孝
- ②テーマ：高齢化社会における市場のニーズ開拓

③内容：これから迎える高齢化社会で印刷業としてどのようなビジネスチャンスがあるか考える。例えば、高齢者のニーズ、葬儀社とのコラボ、終活、エンディングノート、自分史、出版物の開拓、老人ホーム、介護施設等での説明・相談会の実施など。

④まとめ：「自分史のやさしい作り方」を会員企業が利用して、葬儀社や老人ホーム等に紹介してはどうか。また、高齢者の多くなった山岳同好会などでは写真集の提案も可能だし、県人会等の団体への営業の役に立つと思う。さらに、この営業活動で成り立った成果は、ジャグラに事例として報告し、その営業方法等を整理し、集約する。

■Eテーブル



- ①リーダー：(株)イデアル / 大阪 佐藤元
- ②テーマ：業態変革による経営

③内容：製造工程の改革など新しい経営を考える。自社生産をやめ、アライアンスの形態で印刷工場を立ち上げる。コア企業に出資を募り基本形態を形成、さらに作業量を確保するため、会員制度を立ち上げ参加を募る。大胆な手法で製造工程を変革し、新しい経営を模索する。

④まとめ：今回の「自社生産をやめ、アライアンスの形態で印刷工場を立ち上げる」というビジネスモデルを作り上げた「経緯」や「システムの内容（仕組み）」、「現在の状況」の説明を受け、テーブルメンバーの共通の感想として多かったのは、「今までの業態を見直し、新しいチャレンジをしていかなくはいけない時期に完全に入っている」というものだった。

業態変革については、近年印刷業界内で叫ばれていて、各社その必要性を感じてはいるものの、その方向性や手法について、具体的に変革する事は非常に困難で、実現できていない会社が多いのが実情だが、佐藤さんの体験談や理念を聞くにつれ、皆一様に今後の各社の経営について前向きに考えるきっかけを与えられたとの感想だった。

「強いジャグラになるためには、まずは会員各社の経営基盤を強くしていかなくはいけない」という主旨で進められた今回の協議会、その趣旨は十分に理解され、意義があったと感じた。

- 気づきのキーワードとして以下のものが挙げられた。
- ※時代の変化：アライアンスのビジネスモデル作り、合理的決断
- ※設備とのバランス：一貫生産への疑問、ネット印刷に負けない強さ作り
- ※その他：ハード面ではなく、ソフト面での進化の必要性、ブレーンの必要性

2017.11.10

■Fテーブル.....



- ①リーダー：(株)新踏社 / 奈良 安達研
- ②テーマ：民間団体とのコラボでビジネス創出
- ③内容：

民間団体とのコラボビジネスを考える。「寄付金ビジネス」として「奈良の鹿愛護会」「盲導犬訓練センター」と組んだ「ノーモ」が好評。新聞社のイベント商品や大学のオープンキャンパス、また、様々なイベントに出展して販売、さらに拡大を目指す。

④まとめ：
官公庁・学校中心や特定の顧客からの仕事を脱却するため、今までのビジネスモデルの転換期をむかえ各社考えている。そこで、今回のFテーブルのテーマに沿って検討した結果、『社会貢献事業としてジャグラが取り組む事が出来ないか検討する』という結論に達した。ただしジャグラ会員がどのように関わられるかが課題。

また、その他の意見として、
※ドローンを活用した事業
※地元商品を発信する事業
※旅館を運営する事業
※翻訳事業から大使館の仕事を受注する事業
など、ネット通販や大手に出来ない仕事をお客様と一緒につくっていく仕事へビジネスモデルを転換していく。

■Gテーブル.....



- ①リーダー：(株)ウイング / 和歌山 松下忠
- ②テーマ：コミュニケーションによる地域の魅力発見
- ③内容：

コミュニケーションをベースにした観光活動と営業展開を考える。世界遺産である高野山の観光ガイドブックを自社にて出版。また、ボランティアでの観光フリーペーパー発行は10年目を迎える。その活動の一環として市の観光プロモーションに参画。コミュニケーションをベースとし

た営業展開を図る。
④まとめ：
※企画出版
地域の魅力再発見、ガイドブックの新しい切り口プロジェクト手当、ボランティアでの人間関係

※まとめ
単にガイドブックを作るのではなく、「高野山」など地域を限定したり、歴史・文化などジャンルを限定して、自社オリジナルのガイドブックを作成することが、地域の信頼を得られることにつながるというのがわかった。

しかもフリーペーパーも協賛を募らず、ボランティアで発行することにより、人と人とのフラットなつながり、信頼関係ができ、「地域の文化に貢献する企業」というブランド化につながっているのがすごい。

自社で企画から立ち上げるのは印刷会社にとって苦手なことかもしれないが、「好きなことを、やりたいことをやる」ということで利益をあまり考えずに取り組むことが、社員の自主性を育てたり、会社としてのイメージアップになると気づかされた。

改めて、「自分の会社は何のためにあるのか?」「何をやりたい会社なのか?」という会社の「在り方」が問われている時代なのだろう。

■Hテーブル.....



- ①リーダー：(有)松永印刷 / 鹿児島 松永英明
- ②テーマ：地域の魅力を掘り起こし活性化につなげる
- ③内容：

地域密着型の印刷業ならではのビジネスについて考える。地元の人しか知らない物や事を発見して、それに磨きをかけてネットやSNSを使い世界に発信していく。

④まとめ：
地場の財産・歴史を元に地域おこしの商品開発をするのが、販売につながるマーケティング等が弱い。商品の継続的な戦略を検討しなければならない。

～テーブルディスカッション講評～

需要掘り起こしはまだまだ可能 チャレンジする勇気を!

理事(ジャグラ元会長)/共立速記印刷(株)(東京文京) 吉岡 新



私 は昨日、Hグループに参加させていただきましたが、自社の事例ということで、今年6月から千葉県流山市で始めたフリーマガジン『なちゅら』の紹介をしました。流山市は現在5万9000世帯ありますが、月一回全戸配布しています。本当は隣の野田市に私の工場の工場があるので、そこから始めようと思いましたが、調査をしていくと早く軌道に乗るだろうということで流山市となりました。費用は広告で賄っており、今のところ約200万円程集まります。まだ認知度が低いということでプライスダウンして広告を取っている現状ですが、これが300万円位になりますとかなり赤字ということになります。現在スタッフ4人ですが、将来は3人でやっていきたいと考えています。こういう新しいことをやることによって、今まで違う作業をしていた社員をこちらに抜擢したり、新しく人材を受け入れていく必要が生じますので、会社が活性化していきます。また、これだけの印刷物(A4判32ページ)、菊全判でちょうど2台分を6万1000部刷っていますが、印刷機が24時間位大体埋まっています。ですから月の30分の1、これだけで仕事が埋まるわけです。これをもう1か所、野田市でも展開することによって、30分の2埋まることとなりますが、そう考えると、これはとんとんでやっていけばまずは御の字。費用は、人件費と紙・インク代、ポストイン業者に払う位で、そんなにかかっていないんです。

バ ブルが弾けてもう25年以上経ちますが、この間、印刷業界はパツとしなかった。しかしそのような厳しい経営環境においても、アナログからデジタルへの転換をしなければならなかったわけで、それを生き抜いてこられた方たちが今ここにいて私は感じております。しかし我々はこれから先どのように対応したらいいかと未だに悩んでいます。世の中の変化に応じて、会社も常に変化させていくことが非常に重要です。他人にはなかなか簡単には聞けない—そのようなことを、ジャグラの仲間とああだこうだと議論することによって、なんとなく方向性が見えてくる。「どうやらじっとしていたのでは駄目だな」ということを、昨日のディスカッションで皆さん感じられたと思います。やはり行動に起こしていかなければ駄目。結果として、売上げが伸びない、利益も出ない、経費だけかかったとしても、いろいろチャレンジしてみる価値はあると思います。

も う一つ重要なテーマとして「事業承継」の問題がございませう。「自分の代で終わりだよ。儲からないし、苦勞ばかり多くて、子供に継がせるなんてできない」という声を以前からたくさん聞いてきました。実際に廃業した会員もかなり多くいらっしゃいます。ですが今、世の中を見て、簡単にできる仕事はどこにもないんです。要は経営者が「自分の仕事に誇りを持っているかどうか」ということではないでしょうか。私もちょうど50歳前後のときに事業承継について意識をはじめました。私は後継者として考えていた娘婿に、「やってくれるなら私が60歳になる年の12月31日までに答えてくれ」と、2年位の猶予を与えました。彼は「ぜひやらせてください」ということで、10年前に私どもの会社に入ってもらい、引き継ぎましたが、当時、もし私が少しでも事業に対して「辛いよ、全然いいことないよ、中小企業の経営者なんて本当に苦勞ばかりだ」なんていうことをぐだぐだ言っていたら、たぶん引き継いでもらえなかったでしょう。ウチは娘2人です。事業を継がせるのは無理だと思っていました。そのとき考えたのはM&A。将来それしかないかなということで、絶対赤字は出さない、常に黒字を計上していく—そうすることによって、どこかで必ずM&Aができるという考えも背景にありました。もちろん、どうせなら自分とつながりのある者に継いでもらいたいという気持ちもありましたが、経営者としてはいろいろな選択肢を常日頃から考えておくことが、非常に重要ではないかと思っています。

印 刷需要が新しいネットメディア等に取りられて、縮小していることは事実ですが、その一方で、掘り起こしはまだまだ可能だと思っています。ネットメディアとの融合—例えば動画を配したQRコードとかARコードを印刷することによって、新しい印刷の世界が切り開かれていくのではないのでしょうか。私たちの紙メディアがネットメディアと融合していく新しい世界に、我々の業界は入っていくのです。新しい事業に対する取り組みを、ぜひ皆さん行っていただきたい。この次お会いするときには、「実はあれからこういうことをやったんだよ」というお話が聞ければ、昨日行ったディスカッションは有意義だったということです。皆さん一緒に頑張りましょう。また来年こういう機会でお話しすることを楽しみにしております。どうもありがとうございます。

(文責：編集部)

11.11 (土) 第二日目

全国協議会二日目は、会場を日本教育会館に移し、座長に樋貝浩久副会長が就任して進行しました。

×

地震災害時の備えについて

地震災害時の備えについて、増田理事より報告がありました。



テーブルディスカッション総括

前日のテーブルディスカッションの報告を、その日のうちに入力・オンデマンド印刷し、2日目に配布しました。その報告に基づいて、前会長の吉岡理事より総括がありました。(7ページ参照)



事例発表

事例発表のうち1社は、説明に時間が必要とのことで2日目に実施しました。ドローンを活用している会員企業は全国に何社かありますが、今回は(株)くまがい印刷(秋田)さんに活用事例をご紹介いただきました。

事例④「ドローン活用事例」

～ドローン業界の現状と当社での活用について～
(株)くまがい印刷 / 秋田 熊谷健司(同社専務取締役)



地協報告

●九州(報告者:松永英明)

- 7月にジャグラマーケティング委員会主催クラウドセミナーを福岡にて中国地協と共催し、約20名が参加した。終了後は福岡県支部暑気払いに合流し、非常に有意義な時間を過ごした。
- 10月に地協幹事会を実施した。官公需が減少するなか、各社知恵を絞って努力している様子が伺えた。
- 来年の福岡大会開催に向け、地協一丸となって取り組んでいる。特にSPACE-21を中心とした若手の力が大事だと感じている。



●四国(報告者:中越忠男)

- 25社会員増強できた。
- 四国は理事会、総会を各県持ち回りでっており、当番県では社員も会議に参加するようにしている。各県支部長は、会員の活動内容や予算をすべて把握している。
- 地域の声を本部に届けるためにも、四国・中国など各エリアから副会長を選出して欲しい。



●中国(報告者:宮崎真)

- 2社増強できた。入会の動機は年賀状コンテスト、ジャグラコンテストだった。ジャグラの事業が会員増強に直結していることを実感している。
- 5月に中国地協総会を実施。九州地協の報告にもあった通り、7月に九州地協と共催でクラウドセミナーを実施した。
- 山口県支部より、「日良居タイムス」が製本技術で特許を取得した旨、ニュースの紹介があった。



●近畿(報告者:山本耕司)

- 近畿は毎年6回幹事会を開催している。今年は6回のうち4回の幹事会後、会社訪問を実施した。訪問先は「アーツ」「あさひ高速」「ハグルマ」「トップ印刷」の4社。
- 11月に兵庫県支部65周年と近畿地協総会を兼ねた式典を実施する。
- 10月にジャグラマーケティング委員会主催クラウドセミナーを開催した。



●東海(報告者:伊藤政美)

- 愛知県支部が3社会員増強することができた。
- 静岡県支部のことも盛り上げていきたい。そのために、愛知県支部と静岡県支部との懇親会を企画している。



●北陸(報告者:佐藤順)

- 北陸地協総会は富山の金太郎温泉で開催する。
- 石川県支部では、SPACE-21の活動のバックアップに力を入れている。
- 福井県支部は現在2社となっている。何か新しい方法で会員増強できないか模索している。
- 新潟県支部は会員数の増減がなく膠着状態にあるが、SPACE-21の支援、若手の育成に取り組んでいきたい。



●東京(報告者:菅野潔)

- 会員数が多い分、各社関心のある分野が違うため、毎月テーマを変えたセミナーを開催している。
- 近い予定では、11月に賛助会員懇談会とPODをテーマとしたパネルディスカッション、ビジネスアイデアコンテスト本選などのイベントを開催する。
- 総額1億円の東京都の団体課題別人材力支援事業を行っており、参加企業を募集している。
- 危機突破組織拡大プロジェクト発足、事務局規定の見直し、出版会発足など新しい取り組みを行っている。



●関東(報告者:樋貝浩久)

- 5月に埼玉県大宮で支部長会議を開催した。
- 9月に関東地協山梨大会を開催し、70名が参加した。次回は2019年に神奈川で大会を実施することが決定した。
- 2019年の文化典は栃木県宇都宮での開催が決定している。日程は6月7日・8日・9日で、すでに準備が進められている。



●東北(報告者:熊谷正司)

- 6月に開催した文化典岩手大会の件で、菅原実行委員長より感謝の言葉が述べられた。
- 11月に宮城県仙台で地協幹事会を開催する。
- 来年の地協総会は青森での開催が内定している。
- 来年5月までの達成を目標に、SPACE-21の会員増強に力を入れている。



●北海道(報告者:渡辺辰美)

- JR北海道列車運行本数減少の影響で、各エリア間の移動が困難になっており、思うように会員増強活動が行えていない。
- 地協所属の各社では世代交代が進んでいるため、今後SPACE-21の力を借りて地協を盛り上げていきたい。



事業報告

事業報告は書面配布にて済ませました(内容は本誌前月号で既報)。最後に、岩下登副会長が閉会の挨拶をして全国協議会を終了しました。

全国協議会概要

●出席者

- 会長 中村耀
副会長 熊谷正司、樋貝浩久、菅野潔、佐藤順、岩下登、池邊寛
専務理事 沖敏三
常務理事 守田輝夫
理事 大橋邦弘、尾形文貴、岡澤誠、野田晃司、早坂淳、増田光仁、齋藤秀勝、青木滋、中村盟、吉岡新、笹岡誠、原田大輔、伊藤政美、谷川聡、山本耕司、佐藤元、宮崎真、中越忠男
監事 山崎泰、池上晴英
支部長 (代理を含む、かつこ付きは理事兼任)
渡辺辰美、渡辺啓三、菅原正行、熊谷晴樹、松原巧、後藤卓也、長瀬喜一、高野秀樹、宮本誠、中島博、(尾形文貴)、(岡澤誠)、(樋貝浩久)、佐野修一、中田逸郎、(増

田光仁)、(中村盟)、小林佳之、谷口理恵、(原田大輔)、比嘉良孝、高橋広好、花岡清志、黒澤康憲、水島頸治、八木伴則、神山明彦、竹田正司、高屋伸啓、岡達也、岸徹、安達研、松下忠、西明生、田中泰史、山中克彦、辻紘一、森孝、坂本圭一朗、石井謙二、松本徹、(池邊寛)、松永英明

顧問相談役
谷忠明

●欠席者

- 理事 柳田道
支部長 埼玉県、東京千代田、東京城西、鳥取県、岡山県、宮崎県、沖縄県

●会議の次第

省略(本文記事のとおり)

11.10 第三回理事会を開催

全国協議会の運営と次期役員改選について議論

ジャグラは去る11月10日（金）、東京ドームホテルにて第三回理事会を開催しました。

×

第一号議案 スケジュールに関する件

第二号議案 全国協議会の運営について

いずれも省略

第三号議案 役員改選委員会設置に関する件

次期役員改選のため、役員選挙規程第2条に基づき役員推薦委員会を設置したい。

1) 委員会の構成

①委員は、各地協の会員数150社に1名の割合で選出する（150人に満たない場合はその数ごとに1名）

②1名は必ず地協会長が就任する

2) 委員会の任務

①会長候補、専務理事候補、常務理事候補、員外監事の推薦（①については自薦の禁止規定がある）

②地協より推薦された候補者の集約（事務）

③総会への報告（名簿の作成）

《検討の経緯》

異議なく満場一致で承認した。

第四号議案 次期改選役員数の決定に関する件

次期改選の際の役員数を次のとおり決定したい。別表のとおり。

〔主な意見〕

①現状、北海道と東北は、北海道1、東北2の中で副会長を交互に選出している。この枠を取り払い、「北海道・東北」で3にしたらどうか？

②地協で1というのは少ないのではないかと持ち帰っ

ブロック（選出母体）	理事配分	その内訳			備考
		副会長	理事	その他	
北海道	1人				
東北	2人	1	2		
東京を除く関東	3人	1	2		
東京	8人	1	7		
北陸	1人	1	1		
東海	1人				
近畿	3人	1	2		
中国	1人				
四国	1人	1	2		
九州	1人				
全国	1人			会長候補1	
全国または員外	2人			専務理事候補1 常務理事候補1	
その他	1人		1		会長候補指名
青年部	2人		2		
合計	28人	6	19	3	

て、意見を募ってはどうか？

③地協配分とは別に、事業担当が必要なのではないかと？

④現会員数を反映しないというのはない。

⑤役員推薦委員会で議論してはどうか？

《検討の経緯》

次期役員改選の数については、原案通り。内訳については微調整ありで次回、検討する。

第五号議案 平成29年度事業報告に関する件

省略（内容は本誌前月号掲載のとおり）

《検討の経緯》

異議なく満場一致で承認した。

第六号議案 その他に関する件

①増田理事より、日印産連知的財産部会からの資料が配布された。

②中越理事より、高知県にて最低制限価格制度が始まった旨と、知的財産権の周知があり、制作データを添付せよ、という要求がなくなった旨、報告があった。

以上

●出席者		●欠席者	
会 長	中村耀	監 事	齋藤秀勝、青木滋、中村盟、吉岡新、笹岡誠、原田大輔、伊藤政美、谷川聡、山本耕司、佐藤元、宮崎真、中越忠男
副 会 長	熊谷正司、樋貝浩久、菅野潔、佐藤順、岩下登、池邊寛	監 事	山崎泰、池上晴英
専務理事	沖敬三	理 事	柳田道
常務理事	守田輝夫	監 事	前沢寿博
理 事	大橋邦弘、尾形文貴、岡澤誠、野田晃司、早坂淳、増田光仁、		



月刊
グラフィックサービス
No.793
2017
12

月刊
グラフィックサービス
No.793
2017
12

DTP制作環境アンケート調査

教育・技術委員会が11月に実施

ジャグラ教育・技術委員会（熊谷正司担当副会長／宮崎真委員長）では、会員企業のDTP制作環境実態とスキルアップニーズ把握のため、ジャグラコンテスト推進部会（笹岡誠部会長）によるアンケート調査を実施し、このほどその調査結果を発表しました。

●調査の概要

実施期間：2017年11月1日（水）～17日（金）

回収方法：FAX、Webフォーム

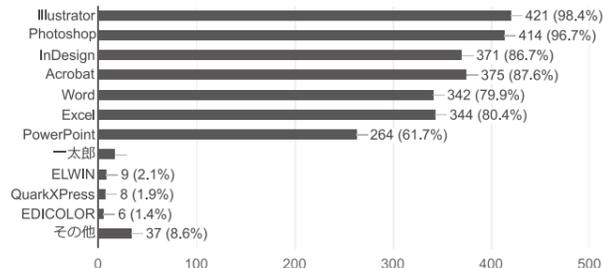
回答数：428件（FAX302件／Web126件）

回収率：48.9%（428件/875社）

設問1 業務で使用するアプリケーション

- Illustrator Photoshop InDesign
 Acrobat Word Excel
 PowerPoint その他（ ）

※当てはまるもの全てにチェック



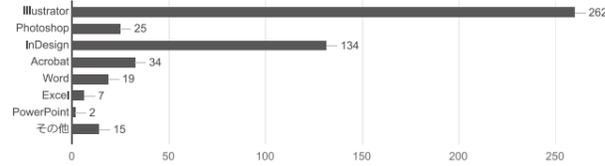
Illustratorが98.4%と最も多く、続いてPhotoshopが96.7%という結果に。6位までが80%以上の使用率を超えていることから、各社複数のアプリケーションを導入して制作環境を構築していることが伺えます。

設問2 アプリケーションの使用頻度

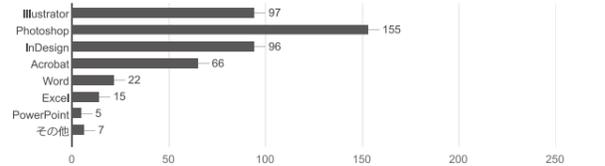
- Illustrator Photoshop InDesign
 Acrobat Word Excel
 PowerPoint その他（ ）

※よく使う順に1から番号を振ってください

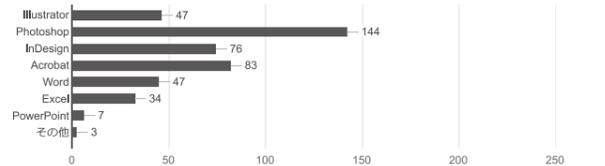
もっともよく使用するアプリケーション



2番目によく使用するアプリケーション



3番目によく使用するアプリケーション

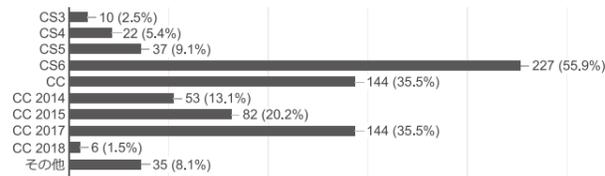


もっともよく使用するアプリケーションでは、Illustratorがダントツの首位、続いてInDesignが2位という結果に。2番目、3番目に使用するアプリケーションとしてはPhotoshopが首位となりました。

設問3 使用しているAdobe製品のバージョン

- CS6 CC CC2014 CC2015
 CC2017 その他（ ）

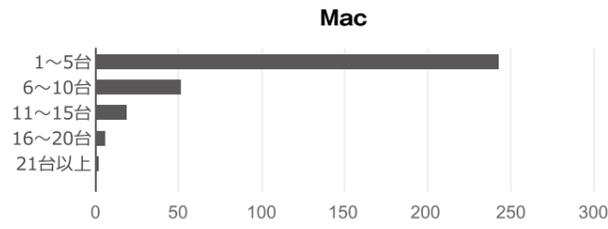
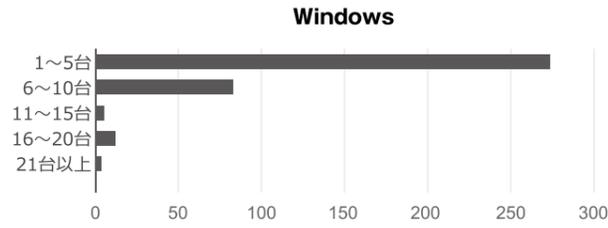
※当てはまるもの全てにチェック



Adobe製品のバージョンはCS6が最も多く、続いてCCおよびCC 2017が同率2位。各社比較的新しいバージョンを使用していることがわかりました。

設問4 業務用プラットフォーム所有台数

- Windows：（ ）台 Mac：（ ）台

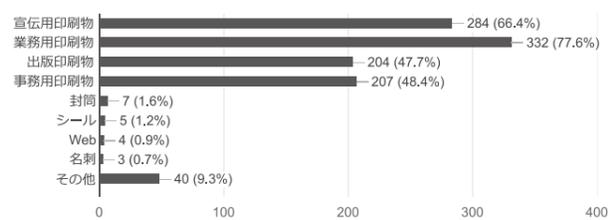


プラットフォームを聞く設問では、WindowsとMacがほぼ同数という結果に。台数としては、5台までの所有が大半を占めました。少ない台数で業務をこなしている実態が伺えます。

設問5 得意な制作物の種類

- 宣伝用印刷物（チラシ、ポスター等）
 業務用印刷物（マニュアル、広報紙、社内報等）
 出版印刷物（雑誌、書籍等） 事務用印刷物（伝票等）
 その他（ ）

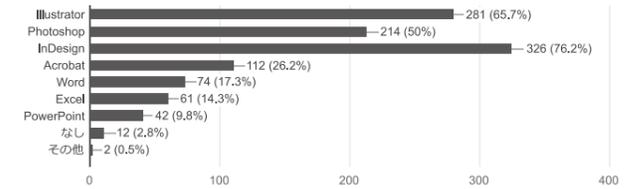
※当てはまるもの全てにチェック



得意な制作物の種類を問う設問では、マニュアル、社内報といった業務用印刷物が77.6%と最も高く、続いてチラシ、ポスター等の宣伝用印刷物が66.4%で2位という結果に。

設問6 スキルを高めたいと思うアプリケーション

- Illustrator Photoshop InDesign
 Acrobat Word Excel
 PowerPoint その他（ ）

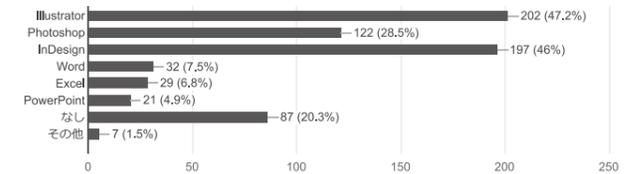


DTPオペレーターのスキルを高めたいアプリケーションでは、InDesignが76.2%と最も高く、Illustratorが65.7%で2位、Photoshopが50%で3位と続きました。組版技術向上への関心の高さが伺えます。

設問7 ジャグラコンテストで技能競技のテーマにして欲しいアプリケーション

- Illustrator Photoshop InDesign
 Acrobat Word Excel
 PowerPoint その他（ ）

※当てはまるもの全てにチェック



ジャグラコンテストの競技テーマを問う設問では、Illustratorが47.2%で首位に、InDesignが46%と僅差で2位という結果に。Illustratorの技術に習熟したオペレーターが多いことが伺えます。

まとめ

今回のアンケートは、会員企業のDTP制作環境実態とスキルアップニーズを把握することにより、ジャグラDTPスクール、ジャグラコンテストをはじめとする教育サービスの向上をめざすために実施しました。アンケート回収率は48.9%と高率で、DTP制作環境に対する会員企業の関心の高さが裏付けられました。今回のアンケート結果をふまえ、使用頻度が高いIllustrator、スキルアップニーズが高いInDesignを中心に、よりよい教育研修サービスを提供してまいります。

調査へのご協力ありがとうございました

GS
月刊
グラフィックサービス
No.793
2017
12

GS
月刊
グラフィックサービス
No.793
2017
12

GP認定制度について①

日常作業の効率化・社員の健康管理・社会的な信頼のために！

(株)興栄社(東京・城東支部)

ジャグラー副会長(前環境委員長) 菅野 潔



今月から数回にわたり、グリーンプリンティング認定制度(以下「GP認定制度」)の重要性を解説します。ただし、ジャグラー環境委員会では、会員企業がGP工場認定を取得するよりも前に、環境意識を持って企業の社会的責任を果たしつつ、その結果としてGP工場認定取得に繋がることを期待していますので、まずは環境対応に興味を持ち、簡単にできることから是非チャレンジしてみてください。

×

連載開始に当たって、GP認定制度の全体像とそれが及ぼす社内での環境意識改革を整理しておきます。その後、具体的な活動事例をあげることで、誰にでもすぐに導入出来ることを実感していただけるようにしていきたいと考えております。

GP認定制度の全体像

1. 背景と目的

環境問題に対する社会的要求が高まり、印刷産業も環境に配慮した製品作りが求められています。GP認定制度は、本基準を達成した工場・事業所を認定、環境経営に積極的な印刷関連企業として推奨するとともに、同基準に適合した印刷製品にグリーンプリンティングマーク(GPマーク)を表示することにより、環境に配慮した印刷製品が広く普及することを目的としています。

2. 概要

GP認定制度は(一社)日本印刷産業連合会(以下「日印産連」)が認定機関となり、日印産連「オフセット印刷サービス」グリーン基準に基づき認定を行い、認定マーク(GPマーク)を使用できるようにした制度です。

また、本制度は三つの制度から成り立っており、環境配慮された印刷工場を認定する「GP工場認定制度」、印刷工場が使用する資機材を認定する「GP資機材認定制度」、認定工場が製造した印刷製品にGPマーク(環境ラベル)を表示できる「GP製品認定制度」があります。



日印産連のグリーンプリンティング認定制度の特設サイト
<https://www.jfpi.or.jp/greenprinting/>

① GP工場認定制度

認定基準に基づき客観的な審査によって環境配慮された印刷工場を認定する制度で、認定を受けた工場をグリーンプリンティング認定工場(GP認定工場)と言い、3年に1回更新審査を行います。

認定基準は法令や条例に対する遵法はもちろんのこと、地域住民への環境影響(悪臭、騒音、振動等)を未然に防ぐ対策を盛り込んでいるほか、VOC発生などの大気汚染防止、廃棄物削減、リサイクル推進、地球温暖化防止など、地球規模での環境対応を基準化している他、労働安全衛生の配慮、緊急時対応の基準にも対応しています。

② GP資機材認定制度

この制度は印刷工場が購入・使用する資機材を環境配慮基準に基づき認定する制度です。対象品目は、洗浄剤、エッチ液、印刷版、現像機、セッター、製版薬品、デジタル印刷機等であり、印刷資機材メーカーからの認定基準適合証明書により、GPマークが表示されます。

また、GP工場の認定基準では、認定されたGP資機材を使用することを評価項目としています。

③ GP製品認定制度

この制度は、GP認定工場が製造し、用紙、インキ、製本・表面加工方法等が環境配慮基準を満たした印刷製品に、GPマーク(環境ラベル)を表示できる制度です。GPマークは製造工程と印刷資材全てが環境配慮されている高度な環境ラベルとして、官公庁の発行物、CSRレポートから一般のパンフレットなどさまざまな印刷製品に表示されています。

3. 社内における環境意識改革

日印産連「オフセット印刷サービス」グリーン基準をクリアするには、様々な項目への知識が必要になりますが、その中で簡単に対応できるものを紹介いたします。

- ① 5S活動
- ② VOC(揮発性有機化合物)の排出抑制
- ③ CO₂(二酸化炭素:エネルギー)の消費の減少

これらは、各企業内における環境意識の改革という意味で直ぐに対応でき、仕事の効率化・企業の信頼性・経済的なメリットとして実現可能なものであり、GP工場認定取得の基本となるところです。

5S活動について

1. 職場環境改善のスローガン

- 5S活動の5つの「S」は、
- ・整理
 - ・整頓
 - ・清掃
 - ・清潔
 - ・躰(しつけ)

の頭文字から成っています。この活動は、職場環境改善の際に用いられるスローガンで、組織的な社内改善に取り組み、徹底してきれいにする活動をいいます。

5S活動の基本は、「整理」「整頓」「清掃」の3Sを徹底し「清

潔」にし、「躰」により習慣づけることです。「整理」は要るものと要らないものを分け、要らないものを捨てること。「整頓」は使いやすいようにきちんと置き、表示をすること。「清掃」は掃除をして、ゴミ・汚れのないきれいな状態にすることです。

2. 業務改善・収益向上につなげる3S活動

【整理】

職場の中で、「要るモノ」「要らないモノ」を赤札等で区別すると、明確になります。不要なモノを無くすことで、有効スペースの有る作業環境が整い、必要なモノの中で作業が出来るため仕事の効率化に繋がります。

【整頓】

日々の作業から、「探すムダ」「使いにくいムダ」「戻しにくいムダ」を排除する活動です。あらゆるモノの整頓は、モノを「誰でも分かる、見つけられる」「誰でも直ぐに使える、取り出せる」そして「誰でも直ぐに戻せる」仕組み作りが、在庫の少ない環境になりさらにはお客様へのサービス向上に繋がります。

【清掃】

顧客に与える印象はもとより、作業の効率や安全面、衛生面等で非常に重要な役割もっています。取引先への宣伝効果に繋がる一方、日々の作業環境に大きな変化が表れ、社内モチベーション向上にも繋がります。

3. 3Sを継続する

以上の3S「整理」「整頓」「清掃」を維持し習慣づけることが5S活動です。チームに分けて3Sの状況点検をすること、さらには社内環境委員会を設け、定期的に3Sの現状報告会を実施することで、改善点の整理や今後の実行計画を練ることができます。

最後になりますが、社内環境整備は決して費用の掛るものではありません。整備をすることで、思った以上の無駄が無くなり、逆に利益向上に繋がるという事をご理解ください。

【ご案内】 本号に日印産連の印刷産業環境優良工場表彰の応募要項を同封いたしましたので、会員企業におかれましては応募方のご検討よろしくお願いいたします。

業界初、再補正可能な超高演色性LED照明 LEDで自然光に近い色評価が可能に

(株)エムティサービス東日本

(株)エムティサービス東日本はこのほど、インテックス(株)が開発した再補正機能を備えた、色評価用の超高演色性* LED照明「Tino4000RA98P」の1次販売店として、12月20日から販売を開始します。

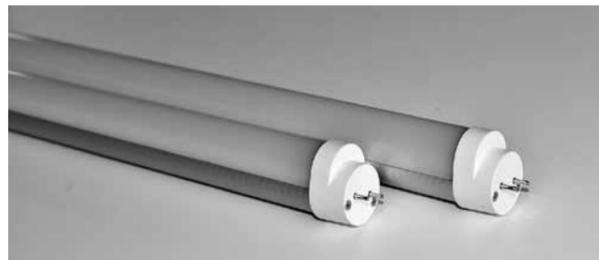
×

近年、有害物質を含んだ廃棄物処理問題やCO₂排出量削減などの観点から、日本政府が中心となり蛍光灯や白熱電球の製造、輸入の規制が強化されています。これまで、印刷物などの色評価には専用の特殊蛍光灯が用いられていましたが、こうした政府の方針を受け、新たな照明器具の開発が急務となっています。

このような動向を受け同社は、LEDモジュールの設計・開発・製造などを手掛けるインテックス社による新たな色評価LED照明の開発に参画。インテックス社が開発した、蛍光灯40W型の超高演色性LED照明「Tino4000RA98P」の国内向け1次販売店として、12月20日に販売を開始します。

本製品は、光源に白色LEDと別波長3光源を加えた独自の4光源方式を採用。各波長の光源を調整することで、柔軟な光のスペクトル(分光分布)を生成できるため、高い演色性を実現します。また、これまでの色評価用蛍光灯は経年劣化により、理想的な分光分布の継続が困難であったのに対し、業界初の再補正機能を搭載することで波長の再調整を可能にしました。

点灯方式はラピッドスタート形、インバーター形、AC電源タイプなどを選べるマルチタイプ電源方式を採用し、蛍光



灯からLEDに変更する際の電気工事を省略できます。従来の蛍光灯に比べ、半分以下の消費電力と長寿命により、交換の手間やランニングコストの削減に貢献します。

同社は今回の「Tino4000RA98P」の発売により、自然光に近い色評価・検査が求められる印刷業界においてビジネスの拡大を図り、同業界の発展に貢献していくとともに、繊維業界や美術館、医療介護施設などにおける新たなビジネス機会の創出にも取り組んでいきます。

●同社・長正道社長のコメント

当社が製版・印刷の現場で40年にわたり、お客さまと共に培ってきた経験と技術力と、全国の拠点による機動力が、インテックス社の持つノウハウと結び付くことで、このたび再調整可能なLED照明「Tino4000RA98P」の発売に至りました。今後、印刷業界の他、色彩に関連する他業界においても照明の演色性管理を追求し、各業界での品質や課題解決につながることを期待しています。

●(株)エムティサービス東日本 www.mtsej.co.jp/

1977年設立。(株)SCREENホールディングス傘下のグループ会社として、印刷製版機器に関する保守サービスとソリューションを提供している。(株)メディアテクノロジー ジャパンの100%出資グループ会社。

*演色性=照明が自然光による色をどの程度再現しているかを示す指標

月刊
グラフィックサービス
No.793
2017
12

あなたの会社を守る ジャグラー・グループ保険

- 特長1 掛金が割安です(例:30歳男性、1口290円/月)
- 特長2 死亡時保障額は最高1600万円
- 特長3 事故による入院もワイドに保障
- 特長4 医師の診査はありません 告知のみでお申し込みいただけます
- 特長5 掛金のお支払方法も簡単です

お問い合わせはジャグラー事務局・酒井まで

tel.03-3667-2271

Roll Over "Edison" 『エジソンを超えて』完成!

～ジャグラのルーツ、謄写印刷を紹介するガイドブック～



先月号で予告しましたが、ジャグラ広報委員会はこのほど、我々のルーツである「謄写印刷」について解説したガイドブック『エジソンを超えて』を発行しました。本号に同封しましたので、ぜひご一読ください。

×

平成27年、ジャグラ結成60周年の際、「今、謄写印刷を知っている会員はどれくらいいるのだろうか?」という声を良く聞きました。謄写印刷は、複製技術としてはだいぶ昔に廃れたため、創業から2～3代目となる現在のジャグラ会員諸氏だけでなく、他団体の同業者、一般の方々にとっても余り近いものとは言えません。しかし歴史を辿ってみると、私たちの先達は工夫と努力を重ねて、この技術を「謄写印刷～軽印刷～グラフィックサービス業」という一大産業にまで成長させ、それをベースとして今の私たちがあることも事実です。ジャグラをこれからも発展させていくためには、自分たちのアイデンティティである謄写印刷に学ぶことも多いわけですが、これまでそれを詳説したものは30周年史などの年史に頼る他なく、何かと不便であったことから、数年前より話題になっていた案件でしたが、今年度に予算化されたことから制作が実現したものです。

制作・編集にあたっては、滋賀県支部のサンライズ出版(株)・岩根順子社長に依頼いたしました。ご存知とは思いますが岩根社長の先代にあたる父君・豊秀氏は、謄写印刷黎明期より活躍された業界の先人で、同社に関連資料も多く残されており、また、謄写印刷関連の資料館などにも地理的に近く、何かと便利であろうと

いう観点からお願いすることになったものです。

11月に開催された全国協議会にて第一版を発行し、若干の修正を経て発刊に至り、ジャグラ全会員に配布(本号に同封)するほか、印刷関連業界にも配布する予定にしています。

エジソンを超えたぞ「ジャグラ」 サンライズ出版(株)(滋賀) 岩根順子

「謄写印刷について知らない世代が増えてきた。あるいは、ジャグラさんはどのような母体の組織なのですか?」と問われることが近年顕著だとのこと。これではいかんとばかりに、執行部および広報委員会で企画されたのが、今回の小冊子なのだという。「何とかせよ!」と申しつけられ、胸をたいたものの大量の資料を基に、今の若い世代でも理解しやすい内容にと、デザイナーと頭を抱えながら格闘したが、果たしてご理解いただけたであろうか?

堀井新治郎が謄写版を開発して123年目、新たなジャグラの挑戦が始まるきっかけになれば、この上もなく嬉しい。今回の制作には、これまで謄写印刷を介してお付き合いいただいた方々の格段のご協力を賜り、また新たな出会いがあるなど大変楽しくお手伝いできたことは望外の喜びでもある。これまで紡いできた謄写印刷の文化的な歴史がジャグラの軌跡であり、一層、新しい感性で新鮮な文化が生まれることを期待したい。

月刊
グラフィックサービス
No.793
2017
12

印刷需要が低迷し、価格競争が激化する経営環境の中で、ジャグラー会員企業はどのようにして活路を見出そうとしているのかを探る「シリーズ 需要創出を考える」——第5回目の今月は平成28年度ジャグラー作品展受賞企業の中から、和歌山県支部・(株)ウイングさんの事例をご紹介します。

×

事例6

作品展 / 開発・開拓部門 全国中小企業団体中央会会長賞

『和紙(わがみ)ファイル』

～NHK大河ドラマに合わせて自社企画で商品化～

作品展 / 業務用印刷物部門 ジャグラー会長賞

『高野山開創千二百年記念 奉賛献書 図録』

～お客様との強い信頼関係の賜物～

(株)ウイング(和歌山県支部)

手探りで始めた商品化

弊社は和歌山県和歌山市で、会社設立37年(創業45年)の地方によくある総合的な印刷会社です。設備は一貫体制で、デザイン制作から印刷・製本・配送まで請け負っています。私たちは、印刷物の需要減少と価格競争に歯止めがかからない現状で、どうすれば利益を得られるのかを日々模索しています。

この度のジャグラー作品展では、2部門で受賞させていただきました。弊社の地元和歌山県には、大坂冬の陣で大活躍した真田幸村(信繁)ゆかりの地である九度山町があります。開発・開拓部門で受賞した「和紙(わがみ)ファイル」は、2016年のNHK大河ドラマ「真田丸」の放送に合わせて、土産物店への物販向けに弊社オリジナル商品として販売したものです。

大河ドラマの放送決定で、県や観光連盟、九度山町を含む周辺市町などが観光客動員に力を入れている最中、弊社でも自社製品として土産物を作成できないかと、社内の開発・改善提案制度を利用した提案がありました。企画・営業部門からではなく、製造部門(プリプレス・生産管理)からの提案です。この提案は採用になり、社員の中から5名が選ばれて商品開発にあたりました。普段は商品の企画や開発に携わったことのない社員もいるチームで、マーケティング調査や販路開拓のやり方を調べたり、他の社員の意見などを参考に検討を重ねていきました。商品開発に

はさまざまな情報が必要で、その情報を手に入れる手段さえもわからず頭を悩ませ、行き詰まることもありました。

自社製品の流用を提案

持ち寄ったアイデアのなかから、商品の価格設定や製造にかかる原価などコストを考慮して、極力内製加工できるものを商品化しました。そのうちの1つが「和紙ファイル」です。真田氏の家紋である六文銭や真田紐などをデザインし、肌触りのよい紙製ファイルの風合いとマッチさせました。オンデマンド印刷による小ロット生産なので、在庫を持たずに必要量だけを卸すことができます。また、顧客である高野山霊宝館様が真田丸の企画展を行なう際の販売用に、企画展オリジナル版デザインで採用となりました。

今回の体験で商品開発の難しさと自分たちの知識のなさを痛感しました。失敗すれば会社に大きなリスクを与えてしまうということも学びました。しかし、自分たちが考えて作りだした商品が店頭に並び、買っていただいたことで喜びも得ることができました。

ウイングならやってくれる

もう1つ、和歌山県にはユネスコ世界遺産の一部である高野山があります。業務用印刷物部門で受賞した高野山真



上段左||和紙ファイルほか真田丸グッズ
上段中&右||高野山開創千二百年記念
奉賛献書図録
下段||高野山ガイドブックとその英語版

言宗総本山金剛峰寺様向けの「高野山開創千二百年記念 奉賛献書 図録」は、高野山真言宗の開創1200年記念に奉納された書道作品の図録です。「前回の記念法会である開創1150年の献書図録が手元にあるけれど、図録の製作をどうしたらいいかわからない。ウイングならやってくれるだろう」とお声掛けいただいたのです。

こちらは、掲載する書道作品936点すべてを写真撮影しました。書道作品は取扱注意の重要物のため安易に外部へ持ち出すことができません。画像補正作業での実物との比較確認ができないため、写真撮影の際に気になる箇所(墨の濃淡、和紙の風合いなど)の注意点を記録し、画像補正の精度を高められるようにしました。

また、撮影時点では作品の掲載順序が確定していなかったため、組版編集で繰入替えとなり、作品番号と掲載番号の照合、作品写真と作品の読みや意味を解説する釈文(しゃくもん)の原稿を照合する点で苦勞しました。完成した図録は、献書された方への記念品として配られたほか、大阪で開催された書道展でも販売されました。

「できあがるまで大変だったけれども多くの方に喜んでもらえる図録になった」と大変ご満足いただきました。

オリジナル出版物の販売

この図録製作にお声掛けいただいた理由に、お客様と弊社とのあいだに築いた強い信頼関係があります。弊社の既存商品に高野山内の土産物店で販売している「高野山ガイドブック」があります。観光客に分かりやすい内容を心掛け、掲載内容の監修をお客様である金剛峰寺様にご協力い

ただいた経緯があります。

先述した高野山開創1200年記念大法会の際には、記念品としてこのガイドブックを一部改訂して採用していただきました。弊社の既存コンテンツを活用できることが大きな強みとなり、平成26年度のジャグラー作品において(公社)日本印刷技術協会会長賞をいただきました。

同年に「わかやま国体」が開催されたことや、高野山が「2015年に訪れるべき場所 世界のベスト20」(米ナショナル・ジオグラフィック誌)に選ばれたことも相まって、高野山および周辺地域には国内外から多くの観光客・参拝客が訪れています。おかげさまで高野山ガイドブックは記念大法会から3年で10万部以上を販売することができました。外国人観光客によるインバウンド需要もあり、現在は英語版の販売も新たに始めています。

全社員で仕事を増やす仕組みづくり

弊社では、多様化するお客様の要望は、印刷物という「モノ」から情報という「コト」へ捉えなおす必要があるという考えを共有しています。需要創出を生み出すための前提として、私たち自身が印刷産業人から情報産業人へと転換することが求められています。

私たちには、顧客目線での問題共有力と情報サービス業のスキルを持った提案力が必要となるため、弊社では全社員のスキルアップ教育を促進しています。社員一人ひとりが得意分野を活かして「仕事を増やす仕組みづくり」を模索・実践し、新たなことにチャレンジにしています。

(寄稿：同社 湯川明子)

ジャグラ

10.28 九州地協幹事会を開催

来年の文化典福岡大会の進捗などが報告される

ジャグラ九州地方協議会は、去る10月28日、アークホテルロイヤル福岡天神にて幹事会を開催。各支部より幹事14名（福岡7名、大分2名、熊本2名、鹿児島3名）が参加しました。

×

幹事会は冒頭の挨拶で始まり、併せて前期活動について、また、10月1日に開催された運営基盤戦略会議の報告がありました。

続いて、鹿児島県支部土氏の司会進行で議案審議に入り、各県支部の近況報告、次に文化典福岡大会の進捗状況が、実行委員長である石井福岡県支部長より報告がありました。それによると、①協賛広告については目標金額にはまだまだなので、計画的に関連業者や会員の皆様にオファーしていく、②ゴルフ、ウェルカムパーティー、懇親会については順調に準備が進んでいるということで、大会までのスケジュールを確認しました。

幹事会終了後は懇親会が行われました。限られた時間でしたが、充実した幹事会・懇親会でした。取り巻く環境は厳しいものがありますが、皆さん、良き仲間恵まれ、時代の流れに順応し、形を変えながらも強い会社、強いジャグラを目指して頑張っておられ、励みになります。この熱い気持ちを持って、来年のジャグラ文化典福岡大会の準備を九州地協一丸となって進めていきたいと思えます。

（寄稿：松永英明九州地協会長）

日印機協

11.7 日印機協総会を開催

幅会長を再任

印刷機資材業者で構成する日印機協（幅和弘会長）は、去る年11月7日、如水会館にて総会を開催しました。

×

当日は、ジャグラから中村会長・沖専務、東グラから正副会長・財政担当理事・専務理事がお祝いに駆けつけました。総会では議事が滞りなく進み、役員改選では幅和弘会長が再任されました。

ジャグラ

11.11 役員推薦委員会を開催

地協配分の役員数を検討

役員推薦委員会が、理事会・全国協議会の開催に合わせて、去る11月11日、日本教育会館にて開催されました。

×

役員推薦委員会の役割は、

- ①会長候補、専務理事候補、常務理事候補、員外監事の推進（①については自薦の禁止規定がある）
- ②地協より推薦された候補者の集約（事務）
- ③総会への報告（名簿の作成）

の三つで、委員は地協の会員数に応じて選出されている。

例年の役員推薦委員会では、理事会の決定に応じて②の地協より推薦された候補者の集約をするが、今回、理事会では地協に配分する役員数を役員推薦委員会でも検討してもらったかどうかの意見が出たため、この点についても検討課題となった。

また役員推薦委員会の一番の役割である①については満場一致で決定したため、次回の理事会（平成30年1月開催）に報告することになっている。

今回の役員推薦委員会の構成は次の通り。委員長には委員の互選により笹岡誠委員（東京地協）が、副委員長には樋貝浩久（関東地協）と山本耕司（近畿地協）の二氏がそれぞれ就任した。

柳田 道 / 北海道（欠席）	熊谷正司 / 東北
樋貝浩久 / 関東 = 副委員長	菅野 潔 / 東京
青木 滋 / 東京	笹岡 誠 / 東京 = 委員長
佐藤 順 / 北陸	伊藤政美 / 東海
山本耕司 / 近畿 = 副委員長	宮崎 真 / 中国
中越忠男 / 四国	松永英明 / 九州

ジャグラ

11.11 幹事会を開催

青年部SPACE-21

ジャグラ青年部 SPACE-21 は、11月11日、ジャグラ会館にて幹事会を開催しました。

×

議題は多岐に渡り、全国協議会岐阜大会の決算報告、次期全国協議会山梨大会の経過報告と協議、来年4月に開催する東京総会の経過報告と協議、広報事業についての協議、プリントネクスト2018の経過報告、マーケティング委員会のキャラバン報告、SPACE-21次期体制について協議しました。来年の全国協議会は山梨県の石和温泉で9月8～9日に開催予定で、AUC40周年記念式典も合わせて開催されますが、1日目に協議会・記念式典、2日目にエクスカッションが予定されています。また、SPACE-21は来年、ジャグラと同様に改選の年となりますが、次期代表幹事の立候補者が福岡県・玄青会の本村豪経氏で確定し、幹事会で承認されました。4月開催の東京総会にて正式に就任します。

幹事会終了後、懇親会をジャグラ会館近くの「ミクスケ」で開催した。同店では、A5ランクの高級肉を庶民価格で提供する人気店で、普段は行列店であるが、今回はSPACE-21のために貸し切り、参加者はジャグルメを堪能した。今回の幹事会はプリントネクスト2018に合わせて2月に大阪で開催します。



ジャグラ

11.22 近畿地協総会を開催

安達研奈良県支部長を次期地協会長に選任

近畿地協（山本耕司地協会長）の総会が、去る11月22日、兵庫県「ザ・マークスクエア」にて開催され、ジャグラ本部より中村会長、沖専務理事が臨席しました。総会では次期地協会長として、安達研奈良県支部長が選任され、「前任の山本地協会長の方針を引き継ぎ、『元気な近畿』を実現したい」と抱負を表明しました。

ジャグラ

11.22 65周年記念式典を開催

兵庫県グラフィックサービス工業会

兵庫県支部（岸徹支部長）である兵庫県グラフィックサービス工業会は、去る11月22日、兵庫県「ザ・マークスクエア」にて、65周年記念式典・懇親会を開催しました。

×

兵庫県における謄写印刷の状況は、昭和8年までさかのぼります。当時は謄写印刷機資材販売業者と謄写印刷業者が混在する組合となっていたが、次第に活動が低迷し消滅。現在の組合のはじまりは、昭和27年兵庫県謄写印刷業組合が結成された時点としています。その後、姫路地区の姫路謄写印刷組合（29年結成）と30年に合併、36年に兵庫県軽印刷業組合と改称、41年に兵庫県軽印刷業協同組合に改組、前後して昭和41年7月に設立した社団法人日本軽印刷工業会（ジャグラの前身）の兵庫県支部となりました。その後も協同組合として活動してきましたが、平成17年に解散、兵庫県グラフィックサービス工業会としての活動を推進し、現在に至っています。

式典では、組合の歴史のエピソードが披露されたほか、先人に感謝状を贈呈し、感謝の意を表しました。

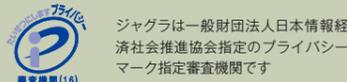
続く懇親会では、「近畿地協6支部対抗歌合戦」で支部を挙げての応援が始まり、大いに盛り上がりました。

上段：兵庫県支部65周年記念式典での記念撮影
下段左から：挨拶する岸支部長、お祝いに駆けつけた中村会長、表彰者の皆さん



月刊「グラフィックサービス」793号

■発行日 平成29年12月10日(毎月1回)
 ■発行人 中村 耀
 ■編集人 早坂 淳
 ■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
 TEL 03-3667-2271
 FAX 03-3661-9006
 WEB <https://www.jagra.or.jp/>



ジャグラは一般財団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

■編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎原稿 / 編集 / 校正

沖 敬三 守田 輝夫 長島 安雄
 酒井 玲子 並木 清乃 阿部奈津子
 今田 豪 (以上、ジャグラ事務局)
 斎藤 成 (東京グラフィックス / 広報委員)
 藤尾 泰一 (南インフォ・ディー / 広報委員)
 日経印刷(株) (校正のみ)

◎組版 / デザイン (南インフォ・ディー)

組版 = Adobe CS6/CC
 フォント = モリサワ OTF ほか

◎印刷 日経印刷(株) (東京・千代田支部)

RIP = 大日本スクリーン Trueflow
 CTP = 富士フイルム XP-1310R 東レ TWL-1160F
 刷版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX
 印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P
 ハイデルベルグ社 SORD
 インキ = DIC
 用紙 = 三菱ニューVマット FSC-MX 菊判 62.5kg
 ※本誌はFSC森林認証紙(管理された森林の木から作られた紙)とベジタブルインキ(環境配慮型インキ)を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。
<https://www.nik-prt.co.jp/>

Copyright 2017 JaGra / 禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です
 また、原則 TM・®マークは省略しています
 ※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたします



ジャグラ スケジュール表

2017.11

- 2日 プライバシーマーク現地審査(広島)
- 6日 プライバシーマーク現地審査(北海道)
- 7日 日印機協総会(如水会館) → 中村会長・沖専務ほか
- 10日 理事会&全国協議会(東京ドームホテル)
- 11日 全国協議会(日本教育会館)、役員推薦委員会(日本教育会館)、SPACE-21 幹事会
- 14日 プライバシーマーク現地審査(愛知)、東グラ理事会 → 沖専務
- 15日 日印産連価値創出委員会 → 沖専務
- 16日 プライバシーマーク現地審査(栃木)
- 21日 プライバシーマーク現地審査(長野)、広報委員会、東グラ賛助会員懇談会 → 中村会長・沖専務
- 22日 近畿地協総会(兵庫) → 中村会長・沖専務、兵庫県支部65周年記念(兵庫) → 中村会長・沖専務
- 24日 環境委員会
- 27日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 28日 プライバシーマーク現地審査(大阪)、日印産連知的財産部会 → 増田理事

2017.12

- 1日 POD 部会、ジャグラコンテスト会議、教育・技術委員会
- 2日 大分県支部セミナー+忘年会 → 事務局
- 4日 プライバシーマーク現地審査(秋田)
- 5日 プライバシーマーク現地審査(秋田)
- 6日 マーケティング委員会
- 7日 経営革新委員会
- 9日 山梨県支部忘年会(東京・三多摩合同) → 中村会長
- 13日 Pマーク審査会、日印産連ステアリングコミッティ → 中村会長
- 14日 日印産連専務理事連絡会議 → 沖専務
- 16日 機関誌新春座談会 → 中村会長、SPACE-21 代表幹事・副代表幹事、FACE 代表幹事、日本自費出版ネットワーク在京役員運営委員会
- 20日 プライバシーマーク現地審査(鹿児島)
- 21日 日印産連知的財産部会 → 増田理事
- 28日 仕事納め

2018.1

- 5日 仕事始め
- 9日 福岡県支部新年交歓会
- 10日 理事会、日印産連新年交歓会(ホテルオークラ) → 中村会長・沖専務ほか
- 11日 大阪府支部新年互例会
- 12日 製本新年会
- 15日 印刷工組新春の集い(パレスホテル) → 中村会長、プライバシーマーク現地審査(秋田)
- 16日 プライバシーマーク現地審査(秋田)
- 17日 広報委員会、日印機協新年互例会(銀座クレストンホテル) → 中村会長・沖専務
- 19日 宮城県支部新春祝賀会、千葉県支部新年合同互例会、愛知県支部新年大集会
- 20日 北陸地協新年会(富山)、長野県支部新年祝賀会
- 22日 東グラ新年会(東天紅) → 中村会長・沖専務
- 26日 神奈川県支部新年会
- 30日 東グラ理事会 → 沖専務

編集後記

『エジソンを超えて』を発刊しました。これは平成27年にジャグラが結成60周年を迎えた際、「今、謄写印刷を知っている会員はどれくらいいるのだろうか?」との発言があり、ジャグラの原点である謄写印刷のことを紹介しようと企画されたもので、制作・編集は滋賀県支部・サンライズ出版(株)岩根順子社長に依頼して作成されたものです。11月に開催された全国協議会にて第一版を発行し、若干の修正を経て発刊に至り、本号に同封しました。ジャグラ全会員に配布するほか、印刷関連業界にも配布する予定にしています。(T.M)



今月のおすすめ番組

最新情報はWebでチェック! <https://www.jagrabb.net>



ビジネスマッチングサロン2017

東京グラフィックス主催「ビジネスマッチングサロン」での各社プレゼンテーションの様相を収録。会員各社が長年培ってきたプロの技術・ノウハウを会員同士で活用しあえばオオキナチカラに!(時間:39分/無料配信)



映像で学ぶ印刷のすべて
【基礎編】【各論】(全38巻)

新入社員から中堅社員までを対象に、映像で印刷業界のすべてがわかる「印刷大全」。1番組あたり15分から30分程度の内容にまとめているので、必要な部分だけを抜き出して見ることが出来ます。(時間:各巻15~30分/会員限定番組)



【シリーズ】経営と環境 環境優良工場表彰株式会社プリプレス・センター様訪問記

ジャグラ環境委員会が2016年日印産連・環境優良工場表彰奨励賞を受賞した北海道支部の(株)プリプレス・センター様を訪問し、同社製造工場長の江澤氏より受賞の経緯や環境対応についてお話を伺いました。(時間:24分/無料配信)



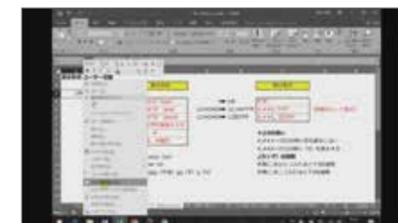
【シリーズ】知らないと損をするWordの仕事術 No.01~04

オフィスワークに欠かせない文書作成ソフトWordについて、仕事の効率アップにつながるワンランク上のテクニックを紹介する新シリーズが登場! 影山史枝講師がピックアップごとにわかりやすく解説します。(時間:各巻5分/会員限定番組)



ビジコンminiだよ!全員集合 ~審査結果発表生放送~

2017年10月18日16時より生放送でお届けしたビジコンmini審査結果発表のアーカイブです。「ザ・ベストテン」を彷彿とさせる手作り感満載の楽しい演出にご注目ください。(時間:10分/無料配信)



【シリーズ】知らないと損をするExcelの仕事術 No.01~10

DTPソフトは使いこなしているけれど、Excelは基本機能しか知らない...そんなDTPオペレーター必見の新番組が登場! 仕事で即使えるExcelテクニックを影山史枝講師が伝授します。(時間:各巻2~10分/会員限定番組)

ワザコレ! 動画募集のご案内

ジャグラBBでは「ワザコレ!」シリーズで配信する投稿映像を募集しています。みなさんの会社のノウハウを動画で紹介してみませんか? 採用された方には1000円相当の商品券を進呈します。ふるってご応募くださいませ。

ワザコレ! 動画応募方法

簡単な内容説明、動画の長さ(撮影編集済の場合)をご記入の上、ジャグラBB企画部会までメールでご連絡ください。追って担当者よりご連絡します。
 応募先メールアドレス: jagrabb@jagra.or.jp

スマホで撮影した動画も受け付けます!



ジャグラBB 新規ID登録がお済みでない方は、下記よりお手続きください
https://www.jagrabb.net/app_mail.php



月刊
グラフィックサービス
No.793
2017
12